

009	From Editor
011	表紙の時計／パルミジャーニ・フルリエ、トンダPF、マイクロローター
012	Editor's Choice!
018	ブルガリ、オクトローマ、ワールドタイマー、グランドセイコー、メカニカルハイビートGMT 44GS 55周年記念限定モデル、ベル&ロス、BR 05 GMT、フレデリック・コンスタント、ハイレイフ、ワールドタイマー、マニユファクチュール、タグ・ホイヤー、カレラ、キャリバー、アーツィンタイム、デイト、ポール・ウォッチ、ロードマスター、パイロットGMT
020	世界は時計で回っている。
022	ヴァシロン・コンスタンタン、トラディショナル・コンプリートカレンダー、オープンフェイス
022	ジュールF. プレハマン、クロノフライトバックグリーン、マネロ、ペリフェラルビッグデイト
024	看板モデルにカラーリングで個性を表現した新作が登場
024	ライネ
026	カスタマイゼーションで独自性を発揮する異色の時計師
030	ベルレ、ラポ、ペリフェラルスリーハンス・デイト、ラポ、ペリフェラルデュアルタイム・ビッグデイト
033	自動巻き開発の祖に敬意を表し、新たな機構の開発に挑む
033	ボヴェ、1822、オルビス、ムンディ
045	旅に出られずとも世界と繋がるためのワールドタイマー
045	創業から四半世紀を迎えたパルミジャーニ・フルリエ
045	築き上げたものを礎に次なる発展を目指す
045	1996年に時計師のミシェル・パルミジャーニ氏が自身のブランドである、パルミジャーニ・フルリエを創業してから昨年は四半世紀を迎えた。この25年の間に傘下に5つの部品メーカーを擁するブランドに成長した。昨年には新コレクションの「トンダPF」とユニークピースの「ラ・ローズ・カレ」を発表。今までの流れを見る共に、ミシェル・パルミジャーニ氏とグイド・ネレーニCEOにお話を伺った。
045	時計も未来を考える
045	SDGsという言葉が日常的に聞かれるようになり、企業は自然環境や人権問題に配慮することが必須となってきている。では時計の世界ではどのような取り組みが行われているのだろうか。今回はサステナビリティレポートを発行しているWCとブライティング、海洋保護活動支援を積極的に行っているオリス、スイスでリサイクル・ウォッチ・ブランドを立ち上げたROジュネーブ等を取り上げた。

自然を思い、健全なる社会を目指して力を尽くす人々

SDGsという言葉が日常的に聞かれるようになり、企業は自然環境や人権問題に配慮することが必須となってきている。では時計の世界ではどのような取り組みが行われているのだろうか。今回はサステナビリティレポートを発行しているWCとブライティング、海洋保護活動支援を積極的に行っているオリス、スイスでリサイクル・ウォッチ・ブランドを立ち上げたROジュネーブ等を取り上げた。

056
New Watches 2021-2022

098	104	インフォメーション／問い合わせリスト／次号予告
097		ウブロククラシックフュージョンタカシムラカミレインボーサファイア
096		ウブロ表参道ブティック
095		ヴァシユロン・コンスタントアン銀座旗艦店
094		スイスの時計産業と日本を繋ぐスイス時計協会(FH)第3回
090		腕時計新着情報
		エベラル クロノ42142、サイエンティグラフ
		カシオ MRG-BE5000B、MRG-BB5000D、MRG-BB2000B
		エドックス スカイダイバーオートマティックリミテッドエディション
		レゼルポワール カニスター
		ティン タータッチコネクトソーラー
		ルイ・ヴィトン タンブールホライゾンライト・アップ
		フォルティス マリンマスターコレクション
		オリス ビッグクラウン×チエルボランテ
		オリス ビッグクラウンポインターデイトキャリバー403
		ブルガリ ペラゴスFXD
		ブルガリ オクトフィニッシモ 宮島達男 日本限定モデル
		シヨパール アルパインイーグルXレクロノグラフ、アルパインイーグルフローズ
		ジラルド・ペルゴ エタニティエディション
		ブランパン フイフティファズムストウルビヨン8デイズ、
		フィフティファズムスバチスカーフ、エアコマンド
		アンジェラス U53
		リシャル・ミル RM35-03 オートマティックラファエル・ナダル
		ルイ・モネ アストロネフ、スペースレポリユーション、
		MB&FXブルガリ レガシー・マシンフライングTアレグラ
		アーノルド&サン ルナマグナ
		エクスカリバー Dr.Woo モノトウルビヨン
		ヴァシユロン・コンスタントアン トラディショナル・トウルビヨンザアワーグラスジャパン25周年記念限定モデル
		ロジェ・デュブイ エクスカリバー スパイダーウラカンEVO2、
		A.ランゲ&ゾーネ ツァイトヴェルク・ハニーゴールド・ルーマン

ヴァシユロン・コンスタンタン ヶトラディショナル・コンプリートカレンダー・オープンフェイス

ジュネーブの高級機械式時計の伝統をモダンに表現

丹念に仕上げられた部品の動きを手元でみるというのができるという、機械式時計愛好家には魅力的な新作が昨年末に登場した。1755年に創業して以来、ジュネーブで高級時計製造を発展させてきたメゾンの伝統を現代の人々に伝えるモデルでもある。

今日のヴァシユロン・コンスタンタンは2016年に誕生した、オーヴァーサイズ、コレクションが高い人気を得て、日本では年代を問わず幅広い層の間で知名度を高めている。15気圧の防水性能やインターチェンジャブルのストラップ／ブレレットの実用性に加えて、カジユール・エレガントなデザインが今日のライ

フスタイルに合致していることもその理由のひとつだろう。とはいえ265年以上にわたりジュネーブの高級時計製造を支えてきた老舗メゾンの魅力は、伝統を今日に伝えるクラシカルなモデルにこそ見ることができるのではないだろうか。

「トラディショナル」はその名の通り、伝統的なスタイルとクラフツマンシップを



昨年の11月にコレクションに加わったブラック文字盤の「トラディショナル・コンプリートカレンダー」。直径41.00mm×厚さ10.72mmの18Kホワイトゴールド・ケースに自動巻きのCal.2460 QCL/1(27石、毎時2万8800振動、パワーリザーブ約40時間)を搭載する。サファイア・クリスタル・バック。3気圧防水。価格488万4000円。

表現したコレクションであり、シンプルながら2針からグランド・コンプリケーションまでを揃える。そこに昨年12月に「トラディショナル・コンプリートカレンダー・オープンフェイス」が18Kピンクあるいはホワイトゴールドのケースで加わった。2018年に「トラディショナル・コンプリートカレンダー」が登場したが、新作ではこれをベースにサファイア・クリスタルの文字盤を通してムーブメントを見ることのできる仕様に変更された。日付を記したスレートグレーのフランジを備え、サファイア・クリスタルの文字盤には18Kゴールドのアプライド・インデックスと時分針、先端に三日月のモチーフが付いた、ブラック処理を施した18Kゴールド製日付針を備える。

文字盤側から見ることもできるムーブメントの仕上げが、「トラディショナル・コンプリートカレンダー」と異なる点であり、NACガルバニック処理を施したスレートグレーの地板にはサテン仕上げが施される。また6時位置に置かれた約122年に1日の誤差の高精度ムーブフェイスはダークグレーのディスクにリアルな月をプリントする。こうして全体にグレー・トーンでまとめられ、シックでモダンな雰囲気醸し出す。このほか月と曜日の表示窓の位置が変更された。

丹念に仕上げられた部品の動きを手元で確認できるこの時計は、機械式時計を堪能できる魅力的なモデルにちがいない。

ところでヴァシユロン・コンスタンタンでは同メゾンが主宰する「ザ・ワー・クラブ」(The Hour Club)のウェアサイトからアクセスできるブロックチェーン・テクノロジーに基づく所有権のデジタル真正証明書のサービスを開始した。これによって時計のライフサイクルの追跡や所有権の共有や証明、時計の固有特性のデジタル化と暗号化が可能となり、情報が保護される。また2022年1月以降に購入した時計は、登録すると保証期間が6年に延長される。時間と手間をかけて世に送り出した時計を末永く愛してもらいたい、という願いでもある。

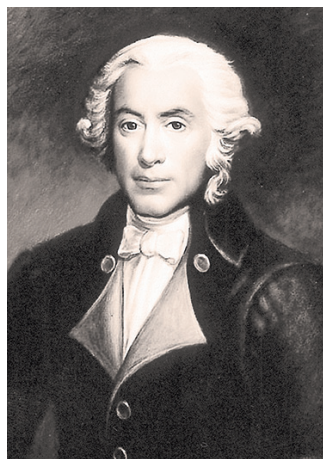
自動巻き開発の祖に敬意を表し、新たな機構の開発に挑む

ペルレの輸入代理店がムラキからオールジュに移行し、日本市場で新たな展開を開始した。今日、ペルレはスペインを本拠地とするフェスティナ・グループの傘下にあり、同グループのネットワークを生かして自社専用ムーブメントの開発にも拍車がかかる。

18世紀前半、スイスのヌシャテル地方では時計の発展に大きく寄与した時計師たちが産声を上げた。たとえばフェルディナント・ベルトウ（1727年～1807年）、アブラムールイ・ペルレ（1729年～1826年）、アブラアンールイ・ブレゲ（1747年～1823年）が挙げられる。今日では彼らの名はブランド名として残り、その功績が語り継がれるが、これも20世紀、あるいは21世紀に「その名が忘れ去られてはいけない」と気づいた人々がいたからに他ならない。

「ペルレ」はアブラムールイ・ペルレとその孫のフレデリック・ペルレの功績を讃えて、1994年にその名が復活した。アブラムールイ・ペルレは1777年に自動巻きを発明したことで知られる。アブラアンールイ・ブレゲも自動巻きを発明したが、ペルレよりもわずかに遅れて1780年のことだった。また両者の機構は異なり、ペルレの自動巻きは今日のセンターローター式に近く、ブレゲの自動巻きの「ペルベチュアル」は分銅が振り

子のように動くものだった。さてペルレ復活に力を尽くしたが、2004年に「アトリエ・ルイ・モネ」を創設したジャン・マリー・シャラー氏だつた。シャラー氏に何うと「私はスイスの貿易会社のシイベル・ヘグナー（現DKSH）で時計を扱っていましたが、その当時のプロジェクトのひとつがペルレの再興でした。今日の時計製造の父ともいえる時計師たちが忘れられてしまうことは不公平だと感じたのです。もう一度ペルレを生き返らせたかった」という。同氏は1990年にペルレの商標を獲得し、シイベル・ヘグナーを退職してペルレを創業。そして1995年のバーゼルフェアで初の時計の「ディプロス」とともにデビューを果たした。この時計のために開発されたCal. P181は、ムーブメントのローターと連動するもうひとつのローターが文字盤側に備わり、ふたつのローターが巻き上げを行う「ダブルローター」が特徴だった。シャラー氏によると、この機構の開発はユーク・ジョリダ



アブラムールイ・ペルレ(1729~1826)。スイス・ヌシャテル州ル・ロックルに生まれ、10代の頃から精密機器の製作に熱中したという。

アブラムールイ・ペルレの孫のルイ・フレデリック・ペルレ(1781~1854)。祖父のもとで時計製造を学んだ後にバリのアブラムールイ・ブレゲの工房で修業を積む。



アブラムールイ・ペルレは1777年に今日のセンターローター式の元祖ともいえる自動巻き機構を装備したムーブメントを発明した。



ルイ・フレデリック・ペルレが1823年のパリ万博に出品した1815年製の天文時計。当時パリに工房を設け、フランス国王やヨーロッパ王室の時計師として活躍した。



1827年にルイ・フレデリック・ペルレがフランス産業物産展に出品したスプリット・セコンド・クロノグラフは、翌年に特許を取得した。

創業から四半世紀を経たパルミジャーニ・フルリエ

築き上げたものを礎に新たな発展を目指す



「トンダ PF スプリットセコンドクロノグラフ」。創業20周年を迎えた2016年に発表した自社設計・製造のブランド初の一体型クロノグラフ・ムーブメントから大型日付表示を省いた手巻きのCal.PF361 (35石、毎時3万6000振動、パワーリザーブ約65時間。地板とブリッジは18KRG製)を搭載した限定モデル。リュウズと同軸にスプリット・セコンド用のプッシュャーを備える。ケースは直径42.0mm×厚さ15.0mmのPt.950製。サファイア・クリスタル・バック。100m防水。価格196万2000円。限定25個。

過去から学び、未来に受け継ぐ現代の時計を生み出す



修復を手がけた右の懐中時計に着想を得て、2014年に発表した「オーバル パントグラフ」。縦45.0mm×横37.7mm×厚さ12.5mmの18KWGケースにローズゴールド製の手巻きのCal.PF111 (Cal.VMF6000+モジュール8002。28石、毎時2万1600振動、パワーリザーブ約192時間)を搭載する。柔軟性に優れたアルミニウム合金で作られた長短針が軸を中心に回転し、軸に納められたカムによって伸縮する。針は30の部品から成る関節構造で、楕円状に植字されたインデックスに沿って伸び縮みする。



モーリス・サンド・コレクションに納められた1780年頃にイギリスで製作され、パルミジャーニの工房で1997年に修復された懐中時計。針が楕円形の文字盤の外周をなぞるように伸縮する機構を備える。ゴールド製のムーブメントに見られる繊細な彫金細工や、ベゼルと裏蓋を縁取るパール、ギョーシェ彫りの上にロイヤルブルーのエナメルを施した裏蓋やゴールドとパールで形作られたヒナギクのモチーフなど、装飾の点でも優れた特徴をもつ。



パルミジャーニ・フルリエの原点はミシエル・パルミジャーニ氏の修復工房にあることはいうまでもない。今日も修復はパルミジャーニ・フルリエにとって重要な存在である。スイスでは職業訓練学校(時計学校)で時計師の資格を取得した後に高等技術学校で2年間学び、スイス連邦政府から修復士としての資格を得ることができ、工房ではふたりが作業にあたっている。修復は18世紀あるいは19世紀に製作され、部品が欠け、錆びついてしまった時計やオートマトンを、時が止まったように当時のままの姿に復元する作業であり、修復士は時には数千時間以上を過去と向

き合い、過去の発想や技術、装飾技巧を学び取ることになる。それは古の時計師たちと対話をし、彼らから多くを盗み取るという贅沢な時間でもある。ミシエル・パルミジャーニ氏は「修復作業で重要なことは分析調査です。そして小さなこすれた跡や傷など、いかなる過去の痕跡も見逃さないことが重要です。また修復は可逆可能な作業であることが必要です。なぜなら後に元来の部品が発見され、あるいは当時の製法についての新しい情報が見つかることがあるからです。修復作業は永続的に繰り返されるので、可逆的であればミスもやり直しができます。そして修復が終わった時に修復の痕跡を残してはいけません」と語る。

修復はそれを行った修復士の秘め事ではあるが、ミシエル・パルミジャーニ氏は修復の過程で得たものを現代の我々と分かち合い、また過去の時計師たちの技量を伝えるために新たな時計を生み出してきた。『オーバル パントグラフ』はそのひとつだ。また2007年に登場したワールドタイムの『トング エミスフェール』も1874年にジュウ溪谷で製作された懐中時計に着想を得ている。こうして歴史は途切れることなく未来へと継がれていく。

時計も未来を考える〈I〉

自然を思い、健全な社会を生み出すために力を尽くす人々

SDGs(エスディージーズ)／持続可能な開発目標)という言葉が日常的に聞かれるようになってきた。17の大きな目標と169の具体的なターゲットの達成は2030年を目指しているが果たして可能だろうか。時計の世界も未来社会を無視することはできない。彼らはSDGsをどのように捉えているのだろうか。2015年に誕生したSDGsという言葉と共に育つ世代は、自ずと環境や人権、貧困、ジェンダーなどの問題をとらえ、価値観も今までとは大きく異なってくると考えられる。そうした彼らが時計を購入する時、何を基準に選び、時計メーカーはそれにどのように応えるのだろうか。今回は企業として持続可能な開発目標の達成を目指す時計メーカーと時計の世界に新たな風を吹き込む製品や素材を取り上げた。

Photo/Courtesy of Oris



SDGsの取り組みでスイス時計業界をリードする



IWCは2021年3月に紙素材のストラップの「ティンバーテックス(TimberTex)」の採用を発表した。森林管理協議会の認証を受けたヨーロッパの森林で生産された木材を原料に、イタリアの専門メーカーで製造される。植物由来の染料を使用し、ブルー、ブラック、ブラウンの3色展開。快適性を高めるために再生マイクロファイバーを詰めて、再生糸を使って手作業で縫い上げられる。現時点ではポルトギーゼ・クロノグラフ、ポルトギーゼ・オートマティック40、ポルトフィノ・オートマティック、ポルトフィノ・クロノグラフに対応する。

2018年に世界最大規模の自然環境保護団体であるWWF（世界自然保護基金）がスイスの時計宝飾業界を対象にサステナビリティに関する調査を行い、その報告書を発行した。WWFは1961年にスイスで設立された。つまりお膝元の代表的産業が今日の地球規模の問題にどのように対処しているか、特に持続可能性に対する戦略と調達管理に焦点を当てて調査が行われた。その結果は「より透明性と責任が必要」というものだった。調査にあたってはパテックフィリップ、オーデマピゲ、ロレックス、ショパール、タグ・ホイヤーのほかにスウォッチグループの6ブランドとリシュモングループの5ブランドの計15社に向けて事前評価のために質問を提示。しかしこれに協力的だったのは6社のみで、他の9社は十分な回答がなく、公表されたデータに基づいて評価せざるを得なかったという。そして最終的にはリシュモングループのカルティエ、IWC、ジャガー・ルクルト、ピアジェ、ヴァシロン・コンスタンタンは中の上と評価され、その他は中以下

であり、業界全体の気候変動に対する意識の低さやゴールドなどの調達の不透明さ、科学的な手法や環境効率の測定の見直しなどが指摘された。この調査結果でも高い評価を得て、サステナビリティに対して積極的とされたのがIWCだった。

IWCは2018年にグローバル・レポート・イニシアチブ（GRI）が定めるガイドラインに基づいて、初めてサステナビリティ・レポートを発行した。これはスイスの高級時計業界のなかでも初の試みであった。IWCでは社内各部署の責任者10名から成るサステナビリティ委員会を結成し、サステナビリティのための目標を設定して2年周期でその達成を評価し、報告書をまとめている。2020年版にはGRIに従って「ビジネス管理」、「調達」、「環境」、「雇用者としてのIWC」、「社会への投資」の5項目について過去2年間の進捗が記されている。

「調達」を見てみよう。IWCは2014年に宝飾協議会（RJC/Responsible Jewellery Council）に加盟し、同協議会が認定するサプライヤーからのみゴールド

やプラチナ、ダイヤモンドを購入している。これによって紛争や人権侵害、児童労働、環境破壊に関与した製品の調達を行わないことが明確にされる。2020年には時計業界では初めて、調達が社会的にも環境的にも適格であることをRJCが認定するCOP（Code of Practice）認証の監査を受けた。2020年に達成目標に掲げた、ゴールドに関して公式文書で証明された追跡可能な物流が行われていることを保証するCoC（Chain of Custody/一連の管理）認証を受けることも2021年には実現している。

「環境」では気候変動とエネルギー、水の消費と廃棄物の管理、プラスチックの利用、循環経済を柱に取り組みを行う。その具体例として太陽光発電の採用や、プラスチックの利用を大幅に削減した新しいボックスが挙げられる。このほか二酸化炭素排出量の産出とそのオフセットやFSC（Forest Stewardship Council/森林管理協議会）認証の林産物のみの使用、ITを利用して環境汚染を抑える、グリーンITの実践などが進む。

【特集】

ウオッチズ&ワンダーズ 2022

2019年までジュネーブで行われていた新作発表会のSIHHは、ウオッチズ&ワンダーズジュネーブと名称を改め、2020年から開催予定でしたが、コロナ・ウイルスによって過去2年間はオンラインでの開催となりました。しかし今年は3月31日から4月5日までパレキスポで実際に開催されることが決定され、オンラインでの発表も同時に行うハイブリッド発表会です。参加ブランド数は38にのぼり、ジュネーブでの新作発表会としては最大規模となります。各社の主要な新作を見ていきます。

シヨパールマニユファクチュールの25年の歩み

昨年に設立から25周年を迎えたシヨパールのLUC製造の拠点のシヨパールマニユファクチュール。ウオッチズ&ワンダーズではその記念モデルも発表される予定です。25年の歩みを振り返ります。

「世界の腕時計」第152号は2022年6月8日発売予定です。

世界の腕時計 定期購読のご案内

毎号、送料無料でお届けします!

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方
便利な定期購読を是非ご利用ください。
特別定価アップ分、および送料はサービスいたします。

【年間購読料】

1年間(年4冊) **6,704円(税込)**

(3月、6月、9月、12月・8日発売予定)



【お申し込み方法】

フリーダイヤル 富士山 富士山

●お電話で(年中無休24時間受付) **0120-223-223**

●インターネットから <http://fujisan.co.jp/sekainoudedokei>

●携帯電話から <http://223223.jp/m/sekainoudedokei>

●QRコードから 上記QRコードからアクセスして下さい。

【お問い合わせ】

富士山マガジンスerviceカスタマーセンター

パソコンサイト: <http://fujisan.co.jp/cs>

メールの場合: cs@fujisan.co.jp

に、お問い合わせください。

■注意事項

●定期購読の契約は、富士山マガジンスerviceとの契約となります。

●お支払いのタイミングによっては、ご希望の開始号が後ろにずれる場合がございます。

●地域によっては、発売日より商品到着が若干遅れる場合がありますので予めご了承下さい。

●定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承下さい。

編集の都合上、内容が一部変更となる場合もありますので、ご了承ください。

ワールドフォトプレス総合サイト <https://www.monomagazine.com>

WORLD M O O K

ワールド・ムック1267

世界の腕時計

No.151

令和4年4月15日発行

発行人……………今井今朝春

編集人……………香山知子

発行所……………株式会社ワールドフォトプレス

〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2

編集部……………☎03-5385-5667 FAX.03-5385-5617

広告営業部…☎03-5385-1350 FAX.03-5385-1348

販売部……………☎03-5385-5701 FAX.03-5385-5703

印刷所……………大日本印刷株式会社

- 造本には十分注意しておりますが、万一、落丁・乱丁などの不良品がありましたら
小社・販売部宛てにお送りください。送料小社負担にてお取替えいたします。
- 本誌掲載記事の無断転載・複製・転写を禁じます。